

＜滋賀×SDGs シンポジウム＞「北欧・幸福の社会モデル」に学ぶ

アンケート結果

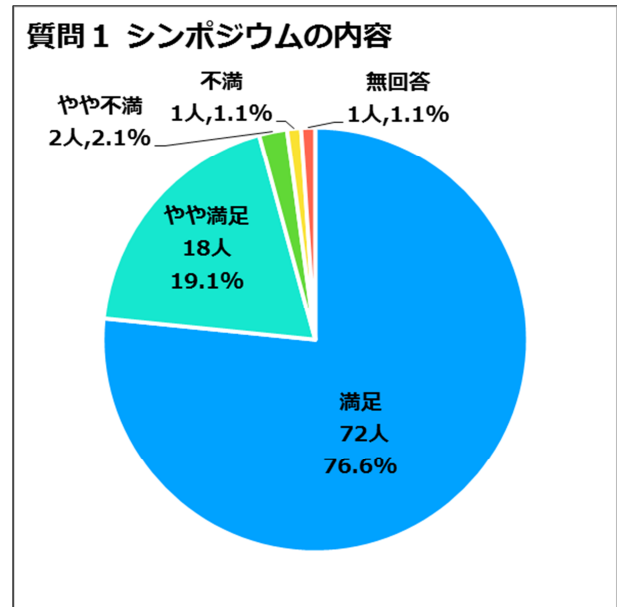
滋賀県総合企画部企画調整課

- 日 時 平成 31 年 2 月 23 日（土） 13:00～
- 場 所 滋賀県庁新館 7 階大会議室
- 回 収 数 94 枚（回収率 53.4%：一般来場者数 176 人）

■回 答

質問 1 シンポジウムの内容はいかがでしたか？

項目	人数（人）	割合（%）
満足	72	76.6%
やや満足	18	19.1%
やや不満	2	2.1%
不満	1	1.1%
無回答	1	1.1%
合計	94	100.0%



質問 2 質問 1 の理由をお聞かせください。

〔主な回答〕

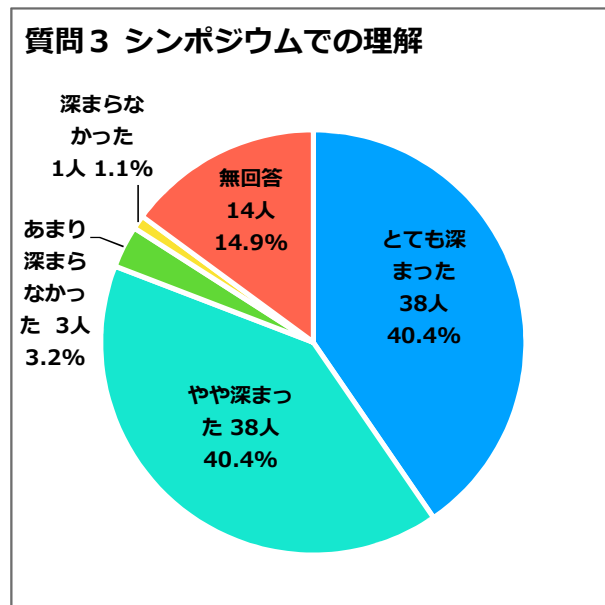
- ・SDGs 先進国のデンマークをはじめ、様々な取組事例を聞くことができた。
- ・デンマークでの取組から企業や行政、地域社会、個人としての行動のヒントが得られた。
- ・実践的な話がたくさん聞けたことや責任ある方々同士の対話もとても興味深かった。
- ・デンマークの行政サービスを知ったこと。行政と市民の距離が近い。
- ・デンマークでの取組や、取組の精神を学ぶことができた。
- ・新しい ICT やソリューションを知ることができた。
- ・デンマークでの具体的な取組が聞いて参考になった。説得力があった。企業が積極的に関

わっている。

- ・目線を変える様々なアイデアが得られた。
- ・日々の生活に関する取組を見つめ直すきっかけとなった。
- ・学生なので、社会がどういう事に取り組んでいるのかを明確に分からなかったため、本日参加した事で社会の中で生きているということが実感でき、大きな学びが得られたと思う。
- ・SDGs は身近なものだと実感し、誰でも何かできることが理解できた。
- ・あらためて、今日から取り組もうというモチベーションになった。
- ・素晴らしい北欧のモデル。日本では不可能と思われていた SDGs への興味を持つことが出来た。
- ・パネルディスカッションの中で、SDGs に関するヒントが少し見えた気がする。
- ・時間、空間を含めて4次元的に理解が広がった。
- ・Global Opportunity Explorer について知ることができた。今後の仕事に活かそうだ。
- ・SDGs には多様な方策があることを知った。北欧社会の心の豊かさを垣間見せてくれた。
- ・北欧・デンマークモデルを学べたことで、目指すべき方向性が明確になった。他者とのつながりを意識しながら、オリジナルな日本式、滋賀式の SDGs を目指したいと思えた。
- ・デンマークにあって、日本に欠けているものは何なのか。また共通する部分は何なのか（ムラ社会がベース）比較しながら、思考が深まった。
- ・アンケート、質問等、参加型のシンポジウムのライブ感がすごく良かった。
- ・オーディエンスが質問したことに対してパネリストがその場で回答できるシステムがとても良かった。
- ・ただ好事例があげられるだけでなく、傍聴者も参加し親身なシンポジウムと感じられた。
- ・印刷物やwebでも多分、同様な情報が得られる。しかし、当事者を目の前にしてその語られる言葉で聞くことは、「自分にもやれる」という気持ちにさせられる。
- ・滋賀県が SDGs に積極的に取り組もうとしていることが分かった。市民参加を目指しているという市長や知事の姿勢に期待が持てそうだった。
- ・市長の目指す地域作りを少し理解できた。
- ・私の企業でも、SDGs を取り組みつつあるので、1つの進め方について学べたことが、非常に良かった。
- ・市民中心なのは良いことだが、やはり行政も変わらないとどうにもならないこともある。
- ・行政への満足度が低いのは同感である。あまり行政には期待していない。信頼は低い！
- ・世界は、日本よりもかなり進んでいることに危機感を持ち、もっと取り組まなくてはならないと感じた。
- ・教育の観点からの SDGs のシンポジウムやワークショップを県をあげてやって欲しい。
- ・ソリューションの紹介よりも、むしろそこに至るプロセスや、行政の役割などに焦点があたっていたら、なお良かった。
- ・デンマークでの具体的事例を含め、SDGs への取組姿勢を紹介いただき参考になった。できれば日本との違いを比較できればよかった。
- ・パネルディスカッションがもう少し長くてもよかった。
- ・少し時間が長い。一方的に聞かされてる感が強かった。

質問3 本日のシンポジウムは、「SDGs イノベーション」の実践事例を学び、SDGs を活用した政策立案、ビジネスの革新、県民の暮らしの発展的な変革を実現するためのヒントを得ることをテーマとしています。本日のシンポジウムで理解が深まりましたか？

項目	人数 (人)	割合 (%)
とても深まった	38	40.4%
やや深まった	38	40.4%
あまり深まらなかった	3	3.2%
深まらなかった	1	1.1%
無回答	14	14.9%
合計	94	100.0%



質問4 SDGs を活用した政策立案、ビジネスの革新、県民の暮らしの発展的な変革を実現するためのアイデアがあれば、お聞かせください。

〔主な回答〕

- ・ AI 技術を使い、市民・県民のニーズを汲み取ることが重要と思う。
- ・ 高齢者を含めた全県民に ICT を浸透させ活用させる方策を！
- ・ 各種行政手続きの簡素化のためのポータルサイト。全市町で統一・各市町でバラバラの書類、記録様式の統一。転居する人達へのサポートのための情報共有になる。
- ・ しが SDGs 新聞を作って、滋賀の問題や素晴らしい資源(ひと、もの、ところ、こころ、わざ)および、課題や解決手段を県民一人ひとりが把握して持続可能な街をつくる。
- ・ 地元の良さ・魅力を語る「語り部」の養成。
- ・ SDGs の意識を地域に広める SDGs アンバサダーのような人材を育成する。
- ・ 今日のシンポジウムをもっと多くの県民レベルで実施する。
- ・ 官民が協働し人材を社会へ向かわせる。自治体や NPO での副業を義務付けるなど、二足の草鞋を履くことで視点が変わり、繋がりも増え、更なるエンゲージメントが生まれる。
- ・ 「消費市民社会」はまさに SDGs 達成のために社会だと思う。消費者教育をもっと県をあげて取り組んでいくべきではないか。
- ・ 危機感をもち、想像すること。まずは現状が続いた場合、未来がどうなるかを楽観的に想像した上で、楽観主義的 story を描き、解決策を見出して実行する。
- ・ SDGs を一人ひとりが生活の中で意識するのは、まだ難しいから、できる機会づくり、オープンな場を増やせたら良いと思う。

- ・比較的幸福を感じている人々に、より良い社会を示して理解を得るのは至難の技だ。まずは持続可能な社会なのかを考えることから始めるしかない。
- ・イベントか何かで実際にSDGを行動に移せる機会が欲しい。
- ・SDGsの日をつくる。SDGsを普及するグッズが身近にあれば良いかと常々思う。
- ・業界や県民生活に現実問題としてコスト・負担感や我慢を強いるのではなく、新しい発展のチャンスととらえられるような活動が必要と思う。
- ・健康しがとSDGsの関連を分かりやすく県民に説明する。
- ・SDGsの絵を描くコンクールをすれば、周知につながる。
- ・あのサッカーボールを県内の学校に配る。子供たちが話題にする。
- ・SDGsのアプリを作り、SNS化して、SDGs活動をアップしてもらおう。若い人にも広まる。
- ・市民参加の場をたくさん提供して欲しい。北欧の活動は大変参考になる。是非コラボして欲しい。
- ・もっと県のビジョンを地域住民に判りやすく伝達出来る方法を検討して欲しい。
- ・SDGsの子供向けバージョンを作り、小学校教育に入れる。
- ・企業と学校(高校・大学)がつながりを深めて、持続可能な社会を創る主体的な子ども(未来の主役)の育成にあたる!
- ・教育(小学校から)での採用。ゲーム感覚で興味をもってもらえるような仕組づくり。
- ・税金をひとまとめにすると、市役所の職員の苦労が少なくなるので、暮らしに役立つ。
- ・様々な実践をされている方に語ってもらえる場をつくり、それを聞き、自分はこういうことができるという意識が持てるようになれば良い。
- ・実際に今取り組んでいることにもたくさんのSDGsの取組があり、相当進んでいるのに、その整理や発信が少ないと感じている。
- ・廃棄物の活用、大量廃棄の制限、夜間営業の制限。
- ・自治体、個人が廃棄していてもったいないと感じたものを全てリスト化する。(物の品名を出す) <各企業から、政府から、市役所から、民間人から出す>
- ・地域の冷暖制度や、水の熱を利用した熱交換。
- ・24時間営業の仕事を制限する条例をつくる。コンビニで消費期限がきれる食品をディスカウントして販売する条例。耐久商品はオーダーにより生産する方式に変更する。
- ・びわ湖ホールはロケーションも素晴らしいのでヨーロッパのように広場のようなエリアを設けて、市民や観光客が幸福になれる場所にしてはどうか。
- ・市民活動を支援する行政の取組を期待する。
- ・行政と市民が共働してまちづくりをする機会を多くつくって欲しい。
- ・まず行政の考え方、取組方の見える化が必要。
- ・SDGsを企業イメージのために使うのではなく、SDGsの本質に迫った事業を展開する。
- ・SDGsポータル、オーガニックの推進。
- ・自治体のHPは見にくい。市民と対話型(双方向で)つながるホームページにしては。
- ・教育に大人がもっと責任を持つこと。
- ・高校を、社会に開かれたSDGs Learning Commonsにする。

質問5 シンポジウムの中で、特に印象に残った内容やキーワードをお聞かせください。

〔主な回答〕

- ・SDGs サッカーボールを常に転がし続ける。
- ・行政への信頼。デンマーク人は政府・政治を信じている。今の、今までの日本政府を信じるなんて無理だ。日本政府を全く信じられないのが、日本の不幸の源泉だ。
- ・街を変えるのは行政ではなく市民一人ひとり。
- ・リスクをチャンスに、発想を転換する。
- ・疑問を持つこと。
- ・未来を他人に作ってもらうのではなく、自らの手で未来を作ること。
- ・税金は社会への投資であり、投資はリターンを求められる。リターンがないと信用につながらない。
- ・経済は人のため、社会のためにある。
- ・ストーリーが無ければ、人は動かない。
- ・SDGs はクオリティ オブ ライフに繋がる。
- ・今日始めたら明日始めるより 1 日早く始められる。
- ・若者のエンゲージメントがデンマークの幸せの指針に挙げられていたこと。
- ・琵琶湖上の船に滋賀県民全員を交代で乗せて、SDGs の話合いをするというアイデア。
- ・街（町）の中に入る行政
- ・サーキュラーエコノミー。発想の転換と新しいビジネス創出につながる発想だと思う。
- ・SDGs は皆に対するギフト
- ・オープンな環境でなければ、つながりや信頼は起きない。
- ・短命の製品の見直し、適正価格の買入運動
- ・地域でのコミュニケーション&信頼性が最も重要である。
- ・エンゲージメント
- ・デンマークが"Trust"をベースにした社会
- ・未来に対する信頼、未来を信じる勇氣
- ・真実とは何か？本質とは何か？常に考え続けること。
- ・初期コストだけではなく、ランニングコストを含め未来まで考えること。
- ・マインドセットの転換（ものの考え方を転換すること）これが大事である。
- ・次世代育成。教育の重要さ。幼児期から「？」→未来に責任をもつ子どもを育成できる。
- ・細かい課題解決は、より大きな課題から入ることで進展する。
- ・サステナブルな製品にはストーリーが必要
- ・本当に必要か、立ち止まって考える。
- ・2030 年まであと 4,000 日

質問6 : その他に何かご感想やご意見があればお聞かせください。

〔主な回答〕

- ・もっと多くの事例を知りたい。
- ・今後増えるであろう過疎地でのインフラ等行政サービスと支援のあり方を知りたい
- ・日本的に SDGs を解釈して、今までの取組と何が違い、何が新しいのか、もっと具体的に学びたい。言葉だけで終わりそうな感じがする。
- ・教育現場での理解と実践が大切だと思う。
- ・デンマークの教育制度についても詳しく知りたかった。
- ・政治家や会社の CEO の意見を聞けてとても貴重な時間だった。知事や市長の意欲には大いに刺激を受け、自分もできることから SDGs への取組を続けていきたいと思った。
- ・誰がどこでどんな事業をしているのか、それは SDGs の達成とどうつながっていくのか、それらをどんどんオープンにする必要があると思う。
- ・日本人は change が嫌いで保守的な人が多い。そういう人は声が大きく権力を握りたがる。
- ・SDGs の目標の 1、3、5、10、16 についてもっと重視してほしい。ビジネスやイベント中心は、貧困や格差解消につながらないのでは？
- ・市民参加型の社会になるためには、まず、市民が、SDGs などの同じ目標を持って、目指す社会の形が同じになれば良いと思った。
- ・SDGs について、学校では知識・経験が少ない中での話し合いに終わってしまう。アイデアを持っている大人たちと話せる機会があれば、学生に SDGs を広めていけると思った。
- ・私たち学生は政治関心が小さくても許されている。社会はそれを打破し、若い世代にも責任を与えることで政治というより社会に対する関心を高めることが重要だと思う。
- ・滋賀の一企業環境担当として、SDGs を「子供たちのため、ミライのため」役立て、実践していきたい。
- ・継続的にこのような「場」を作っていただきたい。小中高生向けにも実施して欲しい。
- ・SDGs の船が実現することを望む。
- ・一つ一つの選択が、SDGs をベースに望ましい方向に進むよう、強い関心を持っている。
- ・行政は、もっと先進国から SDGs を学んで市民のために変革して欲しい。
- ・知事・市長の考えを実現するには、市民の問題意識、それが目の前に迫っている問題である事を自分の事と感じさせる施策が必要だ。例えば、ドキュメンタリーを制作して TV 放映するとか。市民がどこから情報を得ているかを分析して対応して欲しい。
- ・住宅部門における CO2 排出量は、全体の約 2 割を占めており、住宅性能を高めることは、SDGs の実現へ取り組むべき最も重要なことのひとつである。国が手をこまねいているこの分野において、まず滋賀県が率先して取り組んではどうだろうか？
- ・SDGs と Society5.0 を両輪にして、持続可能な未来を創造する必要を感じた。
- ・機会があれば、北欧に関する講演をお願いしたい。
- ・全ての取組について、県は地域における核である。そのような中、SDGs を進めるにあたり、縦割り行政ではなく、総合的な窓口、また、支援出来る窓口を、県庁内（大津）に是非、つくるべきであり、情報発信（課題-対応等）の拠点とすべきである。